写

SGI総会、本部幹部会、中部総会での名誉会長のスピーチ（4面から続く）
1998/11/17　本紙5面　字数:03403

一、正義によって世界を平和と繁栄に導く――これが仏法の目的である。それをなしゆく理想の指導者像を「転輪聖王（てんりんじょうおう）」と説く。

この転輪聖王が用いたといわれる「輪宝（りんぽう＝車輪をかたどった武器）」の本義とは一体、何か？

御義口伝（おんぎくでん）には、輪宝は、「我ら（日蓮大聖人と門下、妙法を唱える者）が口から発する言語音声（ごんごおんじょう）である」（御書七三三㌻）と説かれている。妙法を根本に、人々に希望を贈り、勇気を贈り、ロマンを贈りゆかんとする言論は、悪を打ち破り、楽土をつくりゆく根本の力となって大回転していく。

これが輪宝の力である。我らの「言語音声」の力なのである（大拍手）。

＊ソフト・パワーで

この転輪聖王のなかでも最高の王者を金輪聖王という。

金輪聖王の影響力は、東西南北、全世界に及ぶ。

現代的に言えば、武力を使わない。権力などのハード・パワーを用いない。人々を圧迫しない。

「人格の力」「哲学の力」「芸術・文化の力」というソフト・パワーで、信服（しんぷく）と尊敬を勝ち取っていくのである。

初代会長・牧口先生が提唱された「人道的競争」の理念も、その精神は同じである。

しかも、他の銀輪王などは、自分のほうから相手の国へ行く。

これに対し、金輪聖王は、自分が行かなくても、世界中から慕（した）われ、人々が集まってくるという王なのである。

光栄にも、今、創価学会は、世界の最高峰の知性が千客万来（せんきゃくばんらい）である。

全世界のすみずみから、絶大なる信頼と友情を寄せてくださっている。そういう厳然たる創価学会の時代に入った。そのことを、ともに喜び合いたい（大拍手）。

いよいよ、創価の民衆の連帯が全世界に広がっている。

金輪聖王の出現は、極めて、まれなこととされている。私どもは、この王のごとく、「人間主義の黄金の大光」で、この地球を包みゆきたい。力強く「広宣流布」してまいりましょう！（大拍手）

◆知恵の扉　法王と輪王
1998/12/29　本紙6面　字数:01068

＊知恵の扉／法王と輪王／法王とは「法華経の行者」のこと

###　###

「法王」とは「法門の王」という意味で、仏のことを称賛して呼ぶ言葉です。

「我は王なり……無上の法王なり、法によりて輪を転ず、反転すべからざる輪を」（経集）

ブッダは自らを「法王」とも呼んでいたようです。つまり、宇宙と生命を貫き、律動する〝法〟を覚知して、その法を世の人々に教え弘（ひろ）めている先覚者である、と。

その〝法〟を、ある時は「縁起」と説き、またある時は「四諦」などと、その時々に応じて説いていったのでした。

◇

一方、「輪王」とは「転輪聖王」「転輪王」ともいい、多説ありますが、仏典では〝力と杖〟つまり〝軍事力〟を使わないで、〝法〟によって征服する「理想的な王」のこととされています。

「法に依（よ）り法を恭敬し法を尊重し法を崇敬し法を念じ法を養い法を崇敬し法を幢（はたほこ）とし」一切の人々、動物にまで正しい庇護（ひご）をするのが「聖なる輪王の務め」（雑阿含）といわれていました。

「法王」と「輪王」の関係については、三十二相をそなえたものは、「出家」すれば仏陀となり、「在家」にあると転輪聖王となる、とされてもいました。

また著名な仏教学者の一人・藤田宏達氏は「転輪聖王」とは「仏陀によって開顕せられた普遍的な『法』の精神を世間的に表現するもの」（「転輪聖王について」）であろうと、推論しています。

この人間の中で、一番最高の人というのは、転輪聖王だと。転輪聖王がこの世に出現する時は、大海に優曇華の華が咲く。また大きな木が生えて、花にはみな立派な実がなる。

で、この一番転輪聖王の上の人を金輪聖王と言い、金銀銅鉄という四種類の、四種類と言っては申し訳けないけれども、四つの転輪聖王が、鉄輪聖王・銅輪聖王・銀輪聖王・金輪聖王がいる。

で、広宣流布の時は、この金輪聖王が出現するのである。だから広宣流布の時は、この金輪聖王が出現して、世の中は平和になる。すべての人をこの平和に導くんですから、いかなることも自由自在である。妨害する者も信服し、自らは十善を行じて大果報を得ておる。

そこで妙法蓮華経はいつ広宣流布するんだという問題が起きる。最後の本当の広宣流布の完璧の時はこの金輪聖王の出現にある。その時に戒壇の本尊を中心として、みな世界平和を祈り、共に世界平和になって、お互いに我此土安穏、この土は常に安穏であっていただきたい。それが法華経の信心である。我々の願いである。妙法流布の根源である。広宣流布のその時の王様はどういう王様かそれは分らんけれども、名前は金輪聖王という資格に於て出現しなければならない。そして我々はみな楽しく本当に成仏の本懐を遂げる様な時代に導くように、南無妙法蓮華経の修行をし、そしてそれを弘めていかなければならない。そうなるまでにはいろんな妨害もある。しかし、それに負けてはいけないから、大聖人がこういう風にお書きになったのであります。

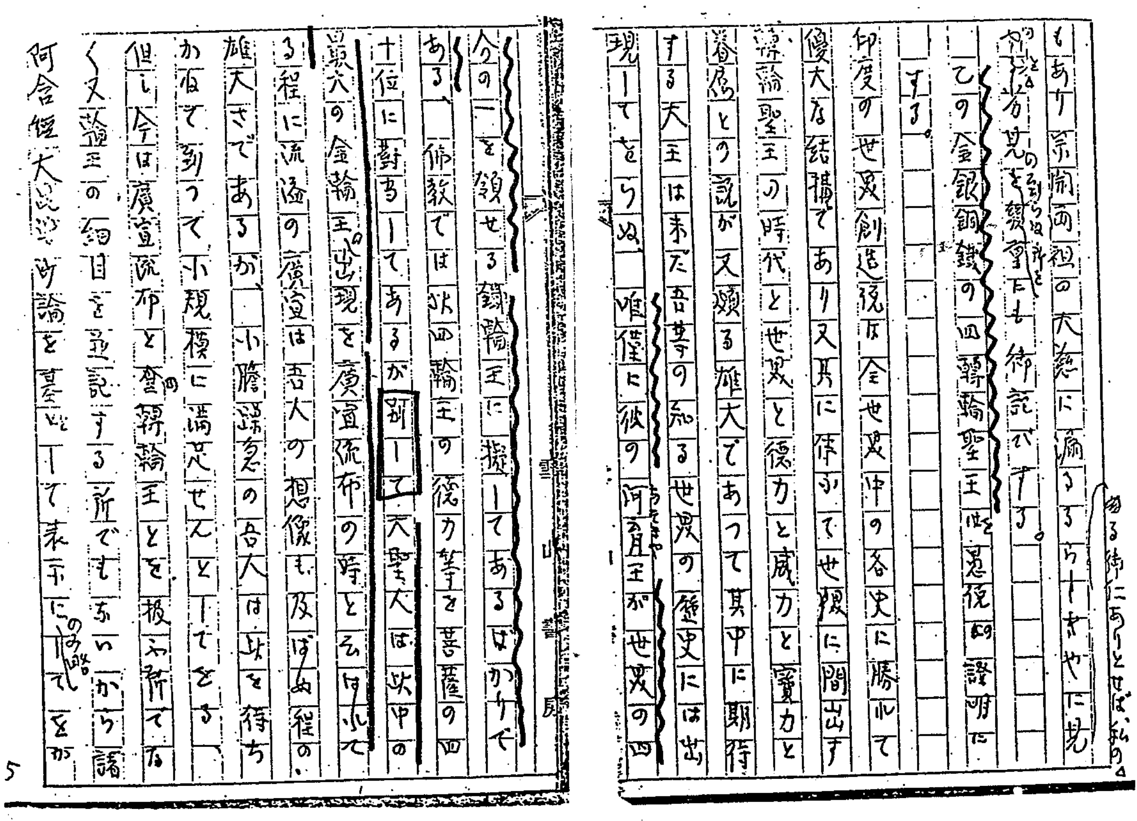
今日はここまでにします。

題　目　三　唱

（文責在速記者）

日達上人説法「法蓮抄」
（「大日蓮」S48年6月号）

堀日亨上人著「日蓮上人伝補」


もあり宗開両祖の大慈に漏るゝもの[illegible]に見（ある時にありとせば、私の）

[illegible]

この金銀銅鐵の四轉輪聖王は忍従的證明にする。

印度の世界創造説は全世界中の各史に勝れて偉大な結構であり又其に伴って世界に闡出する轉輪聖王の時代と世界と徳力と威力と實力と眷属との説が又頗る雄大であって其中に期待する大王は未だ吾等の知る世界の歴史には出現してをらぬ。唯僅に彼の阿育王が世界の四分の一を領せる鐵輪王に擬してあるばかりである。佛教では此四輪王の徳力等を菩薩の四十位に對当してあるが、別して大聖人は此中の最大の金輪王の出現を廣宣流布の時と云はれてる程に流通の廣宣は吾人の想像も及ばぬ程の雄大さであるが、小膽躊躇の吾人は此を待ちかねて到って小規模に満足せんとしてをる。但し今は廣宣流布と金輪王とを扱ふ所でなく、又論王の細目を並記する所でもないから、諸阿含経、大毘婆沙論を基として表示にのみ略してをか

雪山書房

5

教行証御書の終りの方に

『已に地涌の大菩薩上行出でさせ給いぬ、結要の大法亦弘まらせ給うべし。日本・漢土・万国の一切衆生は金輪聖王の出現の先兆の優曇華に値えるなるべし』

こう説かれております。大聖人様が出現していよいよ広宣流布になる時には、この金輪王が出現するんだ。その為に、大聖人様がこうこうしておられるのは、金輪聖王の出現のためのお祝いの優曇華の華に値えるが如くであるということをおっしゃっております。だからこれを見ても、大聖人様の考えは、広布の時には金輪聖王が出現するのである。そして戒壇を建立する」（大日蓮47年5月号）と。

細井管長は、天皇が「国主」であることを否定するためにこれを云い出したのである。

しかし、「もし〝広宣流布の時には大威徳の帝王たる金輪聖王が出現して戒壇を建立する〟というのなら、なぜその出現を待って戒壇を建立しないのか。あわてて正本堂などを立てる必要などさらさらないではないか。」（顕正会 浅井昭衞著「なぜ学会員は功徳を失ったか」）